令和元年7月11日　新幹線・総合交通体系対策特別委員会　開催状況

開催年月日　令和元年7月11日
質　問　者　日本共産党　菊地　葉子　委員
担 当 部 課　総合政策部交通政策局新幹線推進室

質　問　要　旨	答　弁　要　旨
一　北海道新幹線のトンネル工事に伴う発生土について 私どもの会派としましては、これまでにもこの問題を取り上げて、環境に与える問題やその処分方法、また受入地の確保についての道の考えを伺ってきました。 先日の新聞報道によりますと、八雲町内のトンネル工事に伴う発生土の搬入先が確保できず、北斗市で受入を検討しているとのことです。また、札樽トンネルの工事着工が遅れているとの報道もあります。計画どおりに建設工事が進んでいない状況にあります。 これまでも、新幹線の建設工事に係る多くの問題を指摘してきましたが、今回、新たな課題が明らかになったことを踏まえて、数点伺ってまいります。	
（一）八雲町内におけるトンネル工事について まず、八雲町内におけるトンネル工事について、町内で発生した掘削土を北斗市に受入を要請しなければならなかった理由についてお伺いいたします。	**【新幹線推進室参事】** 八雲町内におけるトンネル工事についてでございますが、北海道新幹線の新函館北斗・札幌間は、総延長の約8割がトンネル区間となっておりまして、建設主体の鉄道・運輸機構におきましては、トンネル工事に伴う発生土について、沿線自治体と協議をし、周辺環境に十分配慮しながら、受入地の確保に努めているところでございます。 今回の八雲町の案件につきましては、受入地の敷地内に伐採できない保安林が存在し、当初予定しておりました土量の受入が困難となりましたことから、鉄道・運輸機構が、近隣の北斗市に対しまして、発生土の搬入に向けた協議を行ったものと承知をしております。
（二）鉄道・運輸機構からの説明について 今回の件は、十分な事前調査が行なわれていれば、起きえなかったのではないかと考えますが、鉄道・運輸機構が北斗市へ要請を行うに当たり、事前に道に説明があったのかどうかお伺いいたします。	**【新幹線推進室参事】** 鉄道・運輸機構からの説明についてでございますが、北海道新幹線の札幌延伸に向けたトンネル工事の進捗によりまして、今後、更に発生土の受入地が必要となりますことから、鉄道・運輸機構におきましては、これまで以上に沿線自治体との連携を密にいたしまして、幅広く受入候補地の選定に当たっており、今回の案件につきましても、受入候補地の1つとして検討したいとの説明を事前に受けたところでございます。

質　問　要　旨	答　弁　要　旨
（三）受入地の確保について 受入地の確保に当たっては、建設工事の実施主体である鉄道・運輸機構の責任において、市町村などから候補地の紹介を受け、環境影響調査等を実施した上で、地域住民への説明も行いながら、受入地を決定していると承知しております。 そのような中、今回の八雲町の案件、あるいは、札樽トンネルの着工が遅れているとの報道もあったように、受入地の確保が予定どおり進んでいない。そもそも、この当初の計画の見通しに甘さがあったと考えますがいかがでしょうか。	**【新幹線推進室参事】** 受入地の確保についてでございますが、鉄道・運輸機構におきましては、北海道新幹線の札幌までの開業時期を2035年度から5年前倒しするとした、政府・与党申し合わせに基づいて、2030年度末の完成・開業に向けて、工事を進めてきているところであります。受入地の確保に当たりましては、周辺の環境に十分配慮するとともに、沿線自治体や地域住民の方々に対しまして、丁寧な説明に努めながら、取り組んできているところでございます。 道においても、円滑な工事の実施に向けまして、関係者との十分調整を図るよう、鉄道・運輸機構に働きかけますとともに、発生土の受入地確保に向けまして、引き続き、沿線自治体などと連携しながら、取組を進めてまいります。
（四）道の対応について 政府・与党の申し合わせと言うことで、今、お答えいただきましたけれども、でも現状いろいろ考えますと発生土の受入地の確保などの見通しの甘さは否めないのではないかと思います。 小樽市内でも、受入地の確保をめぐっては、住民から環境への影響を心配する声が上がっています。施工前の調査では無対策土と判断されながら、施工中調査で対策土が出てきて、仮置きが必要となる、そういう事例も出ています。 今後もそういうことは予測されますし、受入地確保のハードルはますます厳しくなっていくのではないでしょうか。そんな中で、新幹線建設工事を工期ありきで進めることに道民の理解が得られるのかと疑問に思うものです。2030年度末の札幌開業を目指すとしていますが、受入地確保の現状一つ見ても、完成時期にこだわるべきではない、工事延期もあり得ると考えますが、いかがでしょうか。	**【新幹線推進室長】** 道の認識についてでございますが、トンネル発生土の受入地確保や適正処理を進めていくことは、北海道新幹線の建設工事を円滑に進める上で、極めて重要な課題であると考えてございます。 道といたしましては、引き続き、沿線自治体や鉄道・運輸機構などで構成いたします連絡・調整会議におきまして、対策が必要な発生土の処理方法等について、情報を共有するとともに、2030年度末の札幌開業に支障が生じないよう、関係機関との連携を一層深め、受入地の確保に向け、積極的に取り組んでまいります。
【指摘】 私、今回は発生土の問題を取り上げていますが、トンネルの掘削工事にあたりましては、夜間の発破の音、あるいは水源確保の疑いなど住民の暮らしに関わる問題が出ています。 2030年度末の札幌延伸による経済効果をバラ色に描くだけでなく、この過程で道民の暮らしに起こる様々な不安や問題を置き去りにしないで、立ち止まって、検討も含めて、北海道がしっかり対応すべきではないか、そのことを指摘して、質問とさせていただきます。	